

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		統計学			基礎分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		佐井 至道					
授業目的		統計手法の解析事例を通して統計の基本的法的原理や統計情報の見方、統計解析の方法について学修する。					
到達目標		1) 統計の基本的な考え方が理解できる。 2) 代表的な統計手法が理解できる。 3) 統計解析の実施方法が理解できる。 4) 保健統計の基礎が理解できる。					
授業の概要		統計学の基本的な考え方とその有効性、代表的な統計手法について理解する。					
成績評価		授業態度(20%)、定期試験(80%)					
教科書等		高木晴良:統計学(医学書院)					
自己学習		学習したことを繰り返し復習する。					
留意事項(持参品等)		電卓(平方根のついているもの)					
授業計画(授業内容)		第1回 統計とは					
		第2回 調査・研究と統計学					
		第3回 統計データの種類					
		第4回 統計データのまとめ方とグラフ表示					
		第5回 確率と分布					
		第6回 母集団・標本と推定					
		第7回 検定					
		第8回 保健統計の基礎・試験					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		社会学			基礎分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		小松 恵子					
授業目的		現代の社会における課題を看護の観点から、医療・福祉・介護・看護について理解する。					
到達目標		1) 現代社会における個人、家族、地域社会、医療、福祉の課題が理解できる。 2) 社会学的想像力を通して自己と家族、地域社会、医療、福祉など現代社会のかかわりを理解できる。					
授業の概要		日本における高齢社会の問題を軸とし、老いの評価や病、老人介護、墓と埋葬儀礼などを理解する。さらに、高齢者施策や制度と、高齢社会を支えるために「家族関係」、「日本の福祉」はどうあるべきかについてディスカッションする。また、家族地域社会、現代社会など個別社会学の概要を紹介し、その問題点を理解する。					
成績評価		レポート80%、コメント20%で総合評価する。					
教科書等							
自己学習		日頃から医療・福祉・介護・看護の実態をよく観察し、その問題点について自分の考えをまとめておく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	社会学的な分析方法を修得する一環として専門用語の考察				
		第2回	一つの社会現象を多角的に考察				
		第3回	日本における伝統的人生観、家族観、生殖観などの整理				
		第4回	障がい者とノーマライゼーション社会の考察				
		第5回	人間と社会				
		第6回	地域社会				
		第7回	職業と職場集団				
		第8回	現代社会と現代文化				
		第9回	社会問題と政策的対応				
		第10回	看護の社会の現状と課題				
		第11回	医療と社会(近代医療とは)人間とは何か、医療化社会とは				
		第12回	医療制度と看護				
		第13回	医療職、看護職の地位				
		第14回	医療職、看護職、患者の関係と役割				
		第15回	医療・福祉・介護・看護の課題				

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		家族と社会				基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		久保田 あけみ					
授業目的		人間福祉の視点から家族社会学および家族心理学を基本に家族と家族関係について学修する。					
到達目標		1) 家族とは何かについて理解することができる。 2) 夫や妻の関係・親子・孫関係について理解できる。 3) 患者家族と在宅への支援が理解できる。 4) 家族支援のアプローチの方法が理解できる。					
授業の概要		家族という集団の中で、結婚・夫婦・親子・孫・老人問題の各段階において、人間福祉の視点から理解する。また家族を社会的課題と関連させながら現代家族が抱えている諸問題について理解し支援方法を学修する。					
成績評価		課題レポート(50%)、定期試験(50%)で総合評価とする。					
教科書等							
自己学習		自分の家族や理想とする家族について考えてみる。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 家族とは					
		第2回 夫婦・親と子と孫の関係					
		第3回 思春期と家族					
		第4回 ジェノグラム・エコマップの書き方					
		第5回 結婚と家族発達の基礎					
		第6回 患者家族と在宅ケア					
		第7回 家族支援のアプローチ					
		第8回 現代家族の課題					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		英会話				基礎分野	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		山内 圭					
授業目的		医療現場で高まる英語の重要性を理解し、医療場面における英会話と医療英単語を修得する。					
到達目標		1)外国人の患者にある程度対応できる英会話力を身につけることができる。 2)コミュニケーションが取れるよう、積極的に英語を話す態度を身につけることができる。					
授業の概要		医療現場での英語(及び外国語)の重要性や海外での医療・看護支援での外国語によるコミュニケーション力について理解する。					
成績評価		定期試験(90%)、平常点(授業時の発表、毎回行う医療英単語の小テスト、提出物など)(10%)で総合的に評価する。					
教科書等		古閑博美他『新20ヘルスケア・ダイアログズ(<i>New 20 Healthcare Dialogs</i>)』(弓プレス)					
自己学習		予習をして授業に臨むこと。					
留意事項(持参品等)		英和辞典(高校時に使用したものでよい)を用意すること。					
授業計画(授業内容)		第1回 ガイダンス					
		第2回 外国文化紹介					
		第3回 Unit 1. 電話予約、Unit 2. 受診手続き					
		第4回 Unit 3. 診察の順番待ち、Unit 4. 再診					
		第5回 Unit 5. 入院の指示、Unit 6. 入院手続き					
		第6回 Unit 7. 患者に質問、Unit 8. 入浴の許可					
		第7回 Unit 9. 薬の指示、Unit 10. 検査の指示					
		第8回 Unit 11. 内科、Unit 12. 外科					
		第9回 Unit 13. 小児科、Unit 14. 歯科					
		第10回 Unit 15. 眼科、Unit 16. 耳鼻咽喉科					
		第11回 Unit 17. 産婦人科、Unit 18. 整形外科					
		第12回 Unit 19. 皮膚科、Unit 20. 泌尿器科					
		第13回 海外医療事情について					
		第14回 医療関連の英文記事を読む					
		第15回 まとめ					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		地域医療			専門基礎分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		吉岡 孝					
授業目的		高齢化が進み「病気を治す」ことから「健康を増進する、病気を予防する、病気を管理する」ことへ転換されるようになり、住民の健康問題のみならず、生活の質にも注目しながら、住民一人ひとりに寄り添って支援できる医療活動を学修する。					
到達目標		1) 地域医療が理解できる。 2) 地域医療の対象者が理解できる。 3) 地域医療に関わる住民・保健・医療・福祉の連携が理解できる。 4) 地域医療の現状と課題が理解できる。					
授業の概要		医療の現状や地域医療を学び、地域社会においての地域医療について理解する。地域医療にかかわる人的要素や組織、地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献できる能力を養う。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		自治医科大学(監): 地域医療テキスト(医学書院)					
自己学習		地域保健の学習と併用して履修する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 医療の現状と地域医療					
		第2回 地域社会と地域医療					
		第3回 地域医療の概念と地域医療学					
		第4回 システムとしての地域医療					
		第5回 地域医療システムを構成する人的要素					
		第6回 自治体(都道府県・市町村)・NPO					
		第7回 外来診療・入院診療・在宅医療					
		第8回 まとめ、試験					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		生命倫理			専門基礎分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		今 重之					
授業目的		遺伝子治療、ゲノム改変の基本的な役割から医療倫理・臨床倫理を包括した生命倫理学を理解する。					
到達目標		1) 遺伝子治療、ゲノム改変の基本的な役割を理解できる。 2) 遺伝子治療、ゲノム改変の倫理的問題点を理解できる。 3) 命について考えることができる。 4) 生命倫理の重要性について理解できる。 5) 生命倫理に関して何をどう考えて進むのか事例を通して考えることができる。					
授業の概要		遺伝子治療やゲノム改変の基本的な役割を理解したうえで、医療における倫理問題を考える手がかりを提示し、いくつかの視点を見出し、自ら考えることについて理解する。主に遺伝子技術や生殖技術、移植医療、人口妊娠中絶、安楽死について生命倫理的に理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		資料等を配布する。					
自己学習		講義で行った内容を復習し理解する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 生命倫理(ゲノム)概論、遺伝子検査の倫理問題					
		第2回 出生前診断の倫理問題					
		第3回 遺伝子治療の倫理問題					
		第4回 再生医療の倫理問題					
		第5回 iPS再生医療の倫理問題					
		第6回 ゲノム編集の倫理問題					
		第7回 1回～6回までの試験					
		第8回 安楽死の倫理問題					
		第9回 減胎手術の倫理問題					
		第10回 精子バンクに関する倫理的問題					
		第11回 医療資源の配分に関する倫理問題					
		第12回 宗教上の理由による治療拒否に関する倫理問題					
		第13回 患者さんに「がん」を伝える倫理問題					
		第14回 死に関わる倫理的問題					
		第15回 8回～14回までの試験					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		看護倫理				専門分野専門 I	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		藪田 素子					
授業目的		職業倫理としての看護倫理について学び、医療・看護をめぐる倫理原則を理解する。					
到達目標		1)看護倫理の概念が理解できる。 2)患者の権利と擁護の重要性が理解できる。 3)臨地実習・看護研究に必要な倫理原則とケアの倫理が理解できる。					
授業の概要		看護倫理の基本となる考え方をしっかりと抑えられるように看護倫理の概論について理解する。看護者の倫理綱領と領域別倫理、臨地実習に向けての倫理的な反応が行えるように、各領域に特有な倫理問題が内在する事例を学び、感受性と思考力について理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		宮坂道夫他:看護倫理(医学書院)					
自己学習							
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 倫理とは					
		第2回 看護倫理の基礎知識					
		第3回 患者の権利と擁護					
		第4回 看護者の倫理綱領					
		第5回 看護者の倫理綱領					
		第6回 倫理原則とケアの倫理					
		第7回 倫理原則とケアの倫理					
		第8回 まとめ、試験					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として国立病院機構にて看護業務に12年間携わる。					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		臨床看護学総論				専門分野専門 I	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		齋藤 倫子					
授業目的		対象者の健康状態の経過に基づき、それぞれの経過の特徴や対象者のニーズに応じた看護援助を修得する。					
到達目標		1)臨床看護における対象者について理解できる。 2)治療を受ける対象者に必要な援助ができる。 3)治療を受ける対象者に適切な援助の意義や必要性が理解できる。 4)治療を受ける対象者に安全・安楽な援助ができる。					
授業の概要		臨床場面の特徴、臨床看護に臨むうえでの心得、看護の役割について学び、人間とは何かを基本に医療・看護を必要とする対象者およびその家族を理解する。また、対象者の経過や症状別に理解する。					
成績評価		定期試験(80%)、提出物・授業姿勢(20%)で総合的に評価する。					
教科書等		香春知永他:基礎看護学[4] 臨床看護学総論(医学書院) 任和子他:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護				
		第2回	健康状態の経過に基づく看護				
		第3回	主要な症状を示す対象者への看護:呼吸障害				
		第4回	主要な症状を示す対象者への看護:咳嗽・喀痰、呼吸困難				
		第5回	主要な症状を示す対象者への看護:循環障害				
		第6回	主要な症状を示す対象者への看護:ショック、吐血・下血				
		第7回	主要な症状を示す対象者への看護:悪心・嘔吐、嚥下困難				
		第8回	主要な症状を示す対象者への看護:発熱、倦怠感				
		第9回	主要な症状を示す対象者への看護:運動障害				
		第10回	主要な症状を示す対象者への看護:疼痛				
		第11回	輸液療法、身体侵襲を伴う検査・治療を受けている対象者への看護				
		第12回	化学療法・放射線療法を受けている対象者への看護				
		第13回	事例による看護実践の展開(ABCDEアプローチ)				
		第14回	事例による看護実践の展開(ABCDEアプローチ)				
		第15回	まとめ				

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		感染管理				専門分野専門 I	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		竹村 亮祐					
授業目的		標準予防策の基礎知識を学び、感染経路別予防策を修得する。					
到達目標		1) 感染と感染予防の概要を理解できる。 2) 感染源への対策として医療器材の洗浄・滅菌・消毒の方法が理解できる。 3) 感染経路への対策として手洗いの方法、個人防護用具の使用法、滅菌物の取り扱いができる。 4) 隔離と感染源の拡散防止の方法について理解できる。 5) 看護師自身の針刺し・切創事故の防止と対応について理解できる。					
授業の概要		感染と感染予防策の基礎的知識を理解する。感染予防の基本的な考え方を学び、スタンダードプリコーション、感染別予防対策、医療機関の組織的感染防止への取り組みを理解する。 感染経路への対策として手洗い、滅菌物の取り扱いや個人防護用具の使用など演習を通して理解する。					
成績評価		演習状況(50%)、定期試験(50%)の総合評価					
教科書等		【参考書】 任和子他:基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 任和子他:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)					
自己学習		微生物の学習を復習しておく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 感染と予防の概念の理解					
		第2回 感染への対応方法(標準予防策の理解)					
		第3回 経路別予防策の各論					
		第4回 洗浄・消毒・滅菌の理解					
		第5回 職業感染の防止理解					
		第6回 組織的感染予防の理解					
		第7回 感染予防の基本的テクニックの理解					
		第8回 試験、まとめ					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		看護研究Ⅰ			専門分野専門Ⅰ		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		小野 晴子					
授業目的		看護研究の必要性を理解し、研究に必要な基礎的知識を修得する。					
到達目標		1) 研究の意義, なぜ研究を学ぶのかを理解する。 2) 研究デザインの中から、質的研究・量的研究の特徴を理解する。 3) 事例研究の取り組みの方法を理解する。 4) 事例検討を通して文献レビュー・クリティークを理解する。 5) 研究計画書の重要性の理解と計画書の作成を行う。					
授業の概要		「看護研究とは」を理解し、看護上の課題・問題に関心を持ち、文献を読む。研究に関する倫理的配慮について考え、研究デザインについて理解する。データの収集や分析方法などについて学び、看護研究計画書の作成をする。さらに実態調査研究、文献研究、事例研究、ケーススタディについて理解する。					
成績評価		ワーク状況(50%)、提出物(30%)、定期試験(20%)の総合評価					
教科書等		坂下玲子他:看護研究(医学書院)					
自己学習							
留意事項(持参品等)		次回授業で指示されたものや課題を準備してくる。					
授業計画(授業内容)		第1回 看護研究とは					
		第2回 研究テーマについて					
		第3回 文献レビューから情報の検索					
		第4回 研究における倫理的配慮					
		第5回 研究デザイン					
		第6回 研究デザイン					
		第7回 データ収集					
		第8回 データ分析					
		第9回 計画書作成方法					
		第10回 研究を伝える方法					
		第11回 ケースレポート・事例研究					
		第12回 調査研究					
		第13回 文献研究					
		第14回 実践報告					
		第15回 まとめ 看護研究Ⅱに向けて					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		成人看護学援助論Ⅰ			専門分野専門Ⅱ		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		池田 妙子 畑野 真弓					
授業目的		慢性期にある成人と家族の特徴を理解し、看護援助の基本について知識と技術を学び、人体の機能系統別に成人が罹患しやすい主な疾患について、関連する基礎知識を統合し、必要な看護援助を修得する。					
到達目標		1)慢性疾患の概念にもとづき慢性期看護の役割を理解できる。 2)慢性疾患の特徴について理解できる。 3)慢性期にある対象者と家族の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 4)慢性期にある対象者と家族に対する看護援助の基本について知識・技術を理解できる。 5)慢性期疾患にある対象者の機能系統別に主な疾患について、病態、症状、検査、治療の基礎知識にもとづき、看護援助の知識と技術を理解できる。					
授業の概要		慢性期にある成人の特徴と役割を理解し、慢性期に多い疾患の特徴と治療を学修するなかで、慢性疾患の動向や社会背景を理解する。そして、対象者となる成人の身体的・精神的・社会的特徴を学修し、慢性期にある対象者と家族への看護援助について社会資源の活用なども含めて理解する。また、慢性疾患を持つ看護の実際を、成人が罹患しやすい主な疾患から機能系統別に事例展開し、看護過程を学修する。					
成績評価		定期試験(100%)で総合的に評価する。					
教科書等		南川雅子他:成人看護学[5] 消化器(医学書院) 黒江ゆり子他:成人看護学[6] 内分泌・代謝(医学書院) 今井亜矢子他:成人看護学[8] 腎・泌尿器(医学書院) 岩田健太郎他:成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 慢性疾患の特徴と慢性期にある対象者と家族への看護援助 第2回 運動機能障害を持つ対象者の看護:関節リウマチ① 第3回 運動機能障害を持つ対象者の看護:関節リウマチ② 第4回 代謝障害を持つ対象者の看護:糖尿病① 第5回 代謝障害を持つ対象者の看護:糖尿病② 第6回 消化・吸収機能障害を持つ患者の看護:肝硬変① 第7回 消化・吸収機能障害を持つ患者の看護:胆嚢炎、膵炎① 第8回 消化・吸収機能障害を持つ患者の看護:クローン病、大腸がん① 第9回 消化・吸収機能障害を持つ患者の看護:クローン病、大腸がん② 第10回 内分泌機能障害を持つ患者の看護:バセドウ病① 第11回 内分泌機能障害を持つ患者の看護:バセドウ病② 第12回 内部環境調節障害を持つ対象者の看護:腎不全① 第13回 内部環境調節障害を持つ対象者の看護:腎不全② 第14回 内部環境調節障害を持つ対象者の看護:腎不全③ 第15回 まとめ、演習					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		成人看護学援助論Ⅲ				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		齋藤 倫子					
授業目的		急性期にある成人と、クリティカルケア看護の特徴を理解し、看護援助の基本について知識と技術を修得する。					
到達目標		1)急性期看護に必要な概念を理解できる。 2)急性期看護を必要とする対象者と家族の特徴を理解できる。 3)クリティカルケア看護の特性と対象者と家族の特徴を理解できる。 4)クリティカルな対象者の主要病態の特徴とケアについて理解できる。 5)クリティカルな対象者のアセスメントの方法を理解し、技術を修得できる。					
授業の概要		急性期看護の特徴を理解するために、モニタリングやフィジカルアセスメント技術の修得、急性期医療、主な疾患や治療の特徴についてクリティカルな看護を交えて理解する。また、対象者と家族の精神的支援の必要性を理解し、様々なニーズに応じた看護の提供について学修する。					
成績評価		定期試験で総合的に評価する。					
教科書等		浅野浩一郎他:成人看護学[2] 呼吸器(医学書院) 松田直樹他:成人看護学[3] 循環器(医学書院) 南川 雅子他:成人看護学[5] 消化器(医学書院) 井手 隆文他:成人看護学[7] 脳・神経(医学書院) 渡辺 晋一他:成人看護学[12] 皮膚(医学書院)					
自己学習		テキストを熟読する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 急性期看護の特徴 危機状態にある成人の理解					
		第2回 急性期看護の実際:酸素化・栄養管理・体液バランス・日常生活援助・不快症状のコントロール					
		第3回 疾患を持つ患者の看護:心筋梗塞①疾患・治療					
		第4回 疾患を持つ患者の看護:心筋梗塞②看護過程					
		第5回 疾患を持つ患者の看護:心筋梗塞③看護援助					
		第6回 疾患を持つ患者の看護:クモ膜下出血①疾患・治療					
		第7回 疾患を持つ患者の看護:クモ膜下出血②看護過程・看護援助					
		第8回 疾患を持つ患者の看護:急性肝炎、急性膵炎					
		第9回 呼吸障害のある患者の看護:気胸、胸腔ドレーン挿入中の看護①					
		第10回 呼吸障害のある患者の看護:気胸、胸腔ドレーン挿入中の看護②					
		第11回 疾患を持つ患者の看護:熱傷、中毒、致死的不整脈					
		第12回 急性期症状のある患者の看護(演習)					
		第13回 急性期症状のある患者の看護(演習)					
		第14回 人工呼吸療法中の患者の看護①					
		第15回 人工呼吸療法中の患者の看護②、まとめ					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		老年看護学援助論Ⅱ				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	45時間
担当教員		小野 晴子					
授業目的		高齢者の各健康段階における看護の特徴を踏まえて、高齢者によくみられる疾患、検査、治療について、特徴や問題を理解し、看護の知識と技術を修得する。高齢患者の状態をアセスメントし、看護過程の展開が理解できる。					
到達目標		1) 高齢者特有の疾患の看護及び、家族看護が理解できる。 2) 認知機能に障害のある高齢者について理解できる。 3) 老人保健法や保健医療制度・介護保険等の法律が理解できる。 4) 退院支援に向けた多職種連携の必要性が理解できる。 5) 高齢患者の状態をアセスメントし、看護過程の展開が理解できる。					
授業の概要		高齢者の健康障害と疾患について理解し、看護に必要な知識・技術を身につける。認知機能の障害に対する知識や技術を理解する。在宅、保健医療福祉施設における看護を学修し、介護を必要とする高齢者とその家族、終末期の看護を理解する。					
成績評価		演習レポート(30%)、定期試験(70%)で総合的に評価する。					
教科書等		鳥羽研二他:老年看護 病態・疾患論(医学書院) 【参考図書】堀内ふき他:老年看護学(2) 高齢者看護の実践(メディカ出版)					
自己学習		老年看護学概論および老年看護学援助論Ⅰについて復習する。 病態生理学についても復習する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 高齢者の受けることの多い検査と看護					
		第2回 栄養ケア・マネジメント					
		第3回 薬物療法と看護					
		第4回 手術療法と看護					
		第5回 疾患を持つ高齢者への看護(脳・神経系疾患)					
		第6回 疾患を持つ高齢者への看護(呼吸器・循環器・消化器)					
		第7回 疾患を持つ高齢者への看護(腎・泌尿器・運動器)					
		第8回 疾患を持つ高齢者への看護(感覚器・感染症、内分泌)					
		第9回 認知機能の障害に対する看護(うつ・せん妄)					
		第10回 認知機能の障害に対する看護 認知症①					
		第11回 認知機能の障害に対する看護 認知症②					
		第12回 認知機能の障害に対する看護 認知症③					
		第13回 終末期における看護とケア					
		第14回 介護予防と介護家族への看護					
		第15回 介護・医療ニーズの高い在宅高齢者への看護					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		老年看護学援助論Ⅱ				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	45時間
担当教員		小野 晴子					
授業計画(授業内容)		第16回 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護					
		第17回 高齢者とリスクマネジメント					
		第18回 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方					
		第19回 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方					
		第20回 総合演習					
		第21回 総合演習					
		第22回 総合演習					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
		【実務経験】看護師として大学附属病院にて看護業務に18年間携わる。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		小児看護学概論				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		佐藤 美枝					
授業目的		現代の児童観をしっかりと捉え、小児及び家族の健康上の課題や現代社会における小児と家族の問題について理解する。また、健康な小児や家族の成長・発達の支援に求められる養育・看護について知識と技術を学修する。					
到達目標		1)小児看護学の対象及び役割を理解できる。 2)小児の発達過程の特徴を理解できる。 3)小児の育成に関する社会制度について理解できる。					
授業の概要		小児看護の対象、小児医療、看護の変遷、現代社会における小児看護の課題について理解する。 小児看護で重要な子どもの人権について学び、看護の倫理問題について理解する。小児保健の動向に関する知識を得て、ライフサイクルにおける小児期の健康問題を捉え、各発達段階別の小児看護の役割を理解する。小児の育成に関する社会制度について保健・医療・福祉・教育の視点から学び、発達期にある小児及び家族支援について理解する。					
成績評価		小テストおよび定期試験で総合的に評価する。					
教科書等		奈良間美保他：小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）、国民衛生の動向（厚生労働統計協会）					
自己学習		授業前後の予習・復習を行う。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 小児看護の特徴と理念					
		第2回 子どもの成長・発達					
		第3回 新生児期・乳児期					
		第4回 乳児期					
		第5回 幼児期					
		第6回 幼児期					
		第7回 学童期					
		第8回 思春期・青年期					
		第9回 家族の特徴とアセスメント					
		第10回 子どもと家族を取り巻く社会					
		第11回 小児保健					
		第12回 小児保健					
		第13回 小児保健					
		第14回 子どもに起こりやすい事故と看護					
		第15回 子どもに起こりやすい事故と看護					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として大学附属病院にて看護業務に6年間携わる。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		小児の健康障害と看護				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		関本 員裕					
授業目的		小児が罹患しやすい疾患について、機能系統別に理解し、小児の疾病と治療の特徴について理解する。					
到達目標		1)小児の身体的特性が理解できる。 2)小児の主な疾患について基礎的知識が理解できる。					
授業の概要		各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する。主に先天性代謝異常、内分泌・アレルギー疾患、呼吸器・循環器・消化器、小児がん、腎・泌尿器、神経疾患、精神疾患を学び、看護の必要性について理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		奈良間美保他:小児看護学[2] 小児臨床看護各論(医学書院)					
自己学習		小児の特性を踏まえて疾患との関連付けをする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回(1~4章)先天性代謝異常及び新生児に関連した疾患、代謝性・内分泌疾患					
		第2回(5~6章)免疫・アレルギー・リウマチ疾患、感染症					
		第3回(7~8章)呼吸器・循環器疾患					
		第4回(9章) 消化器疾患					
		第5回(10~11章) 血液・腫瘍性疾患					
		第6回(12章) 腎・泌尿器疾患					
		第7回(13~16章)神経疾患・精神疾患など					
		第8回 まとめ、試験					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		母性看護学概論			専門分野専門Ⅱ		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		宮仲 晴菜					
授業目的		母性看護の基盤となる概念から母性看護の対象をとらえ、母性の特性を学び、母性看護の機能と役割について理解する。					
到達目標		<p>1) 母性看護の対象である母性の特徴と役割を理解し、母性の健康保持増進のための支援の方法について理解できる。</p> <p>2) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解を深め、母性看護の課題や役割を考えるための統計資料から幅広く把握して活用する工夫について理解できる。</p> <p>3) 母性観を養い、母性看護の役割と意義について学び、必要な対象に看護実践ができる能力について理解できる。</p>					
授業の概要		母性看護の基盤となる概念、対象者の特性を理解し、対象者を取り巻く社会の変遷と現状を把握し、母性看護に必要な看護技術や役割と課題を理解する。さらに女性のライフステージ各期における看護を理解する。またリプロダクティブヘルスの視点から母性看護の健康問題とそのケアを学ぶ。さらに次世代育成のためのヘルスプロモーションに対する看護への理解ができる。					
成績評価		課題10%、定期試験90%の総合評価とする。					
教科書等		森恵美他:母性看護学[1] 母性看護学概論(医学書院) 【参考文献】国民衛生の動向(厚生労働統計協会)					
自己学習		教科書の付録にある関係法規の抄録を読み理解する。					
留意事項(持参品等)		課題学習の提出は自らの意見も含めレポートし、引用参考文献を明記する。					
授業計画(授業内容)		第1回 母性とは					
		第2回 セクシュアリティ					
		第3回 リプロダクティブヘルス/ライツ					
		第4回 母性看護のあり方					
		第5回 母性看護の歴史的変遷と現状					
		第6回 母性看護の対象者を取り巻く環境					
		第7回 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化					
		第8回 女性のライフサイクルと家族					
		第9回 看護過程					
		第10回 看護技術					
		第11回 看護技術					
		第12回 女性の健康と看護の必要性					
		第13回 思春期・成熟期・更年期・老年期の健康と看護					
		第14回 感染症・DVに対する看護					
		第15回 国際化社会と看護					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		精神看護学概論				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		小野 晴子					
授業目的		現代社会と精神医療・看護の諸問題を踏まえて、精神の健康、健康障害の概念を学び、ライフサイクルと生活の場における精神保健と支援のあり方について理解する。					
到達目標		1)現代社会と精神医療・精神の健康について理解できる。 2)ライフサイクルと精神保健の支援について理解できる。 3)精神保健福祉の沿革と歴史について理解できる。 4)精神科医療・看護における倫理の重要性を理解できる。					
授業の概要		精神の健康増進、疾病の予防、疾病からの回復に当たる生活を支援する活動を理解する。現代社会が抱える、心の問題や成長に伴う心の変化について理解し、心の健康について理解を深める。精神の健康を取り戻すための援助を必要としている人と、その家族を看護の対象とする精神看護の目的や機能、実践をささえる方法論を理解する。さらに精神保健福祉に関する背景を学び、精神保健看護の機能と役割を理解する。					
成績評価		課題20%、定期試験80%の総合評価とする					
教科書等		武井麻子他:精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院) 武井麻子他:精神看護学[2] 精神看護の展開(医学書院)					
自己学習		教科書を事前に読んでおく。					
留意事項(持参品等)		精神の健康に関して身近な問題から関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢で参加する。					
授業計画(授業内容)		第1回 精神看護学に関する主なモデルの概観					
		第2回 パーソナリティの発達と適応					
		第3回 精神の機能と障害					
		第4回 ライフステージにおける発達課題					
		第5回 ライフステージにおける発達課題					
		第6回 現代社会の特徴と社会病理					
		第7回 現代社会の特徴と社会病理					
		第8回 精神保健福祉ほうの位置づけと歴史的変遷					
		第9回 精神保健福祉法					
		第10回 行動制限と人権擁護					
		第11回 看護における倫理					
		第12回 地域精神保健活動の目標					
		第13回 地域精神保健に関する制度と施設					
		第14回 精神疾患患者のリハビリテーション					
		第15回 地域精神保健活動の実際					
備考		この科目は実務経験のある教員による授業科目である。 【実務経験】看護師として大学附属病院にて看護業務に18年間携わる。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		心の健康障害と看護				専門分野専門Ⅱ	
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		日笠 哲					
授業目的		精神の健康障害について、病態生理、検査、治療について学び、看護の基礎的知識を理解する。					
到達目標		1)精神障害の種類や症状・治療方法を理解できる。 2)精神障害者の捉え方が理解できる。 3)精神障害の治療方法が理解できる。 4)精神障害のある方への看護の必要性が理解できる。					
授業の概要		「精神障害とは」を理解し、代表的な疾患の症状・診断・治療について学び、看護に必要な基礎を理解する。精神障害者の捉え方、かかわり方についても理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		武井麻子他:精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院)					
自己学習		用語等は事前に調べておく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 精神症状論と状態像					
		第2回 精神障害の診断と分類					
		第3回 統合失調症と看護					
		第4回 神経症性障害・ストレス関連障害・生理的障害と看護					
		第5回 器質性精神障害と看護					
		第6回 精神科治療・薬物療法・精神療法・環境療法と看護					
		第7回 社会のなかの精神障害・精神障害と法制度					
		第8回 まとめ、試験					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		在宅看護論			統合分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		丸山 宏修					
授業目的		在宅療養者と家族に対する看護の役割を学び、在宅看護を実践するために必要な知識、技術を理解できる。また、地域包括支援センターの役割を学修する。					
到達目標		1) 地域社会における在宅看護の背景と意義について理解できる。 2) 在宅看護の対象者と家族について理解し、役割と機能について理解できる。 3) 在宅看護の制度、チーム医療に関わる他職種との連携、社会資源について理解できる。 4) 在宅看護の対象者(家族も含む)の権利保障が理解できる					
授業の概要		在宅看護の目的を理解し、在宅看護に関する制度や在宅看護の対象者の特徴、家族を取り巻く社会背景や在宅看護の仕組みを学び、関係職種との連携方法や社会資源など、在宅看護の役割と機能について学修する。					
成績評価		レポート課題(20%)、定期試験(80%)により総合評価とする。					
教科書等		秋山正子他:在宅看護論(医学書院)					
自己学習		教科書を事前に読み事前学習をする。					
留意事項(持参品等)		関心をもって積極的な授業への参加					
授業計画(授業内容)		第1回 地域における看護活動					
		第2回 地域における在宅看護の背景や在宅看護の目的・意義					
		第3回 在宅医療と在宅看護活動の現状					
		第4回 在宅看護の対象者とその家族の理解					
		第5回 在宅看護の対象者とその家族の生活と看護の必要性					
		第6回 在宅看護の対象者および家族の生活における安全管理					
		第7回 在宅看護に関する法令・制度・・・地域包括ケアシステム					
		第8回 在宅看護における関係職種との連携方法や社会資源					
		第9回 地域における医療機関との連携・個人情報の保護と管理					
		第10回 在宅看護における対象者と家族の権利保障と個人の尊厳					
		第11回 マネジメントとケースマネジメント					
		第12回 地域包括ケアシステム					
		第13回 地域包括支援センターの役割・機能					
		第14回 包括的支援事業					
		第15回 自己決定への支援・自立・自律支援、QOL向上への支援					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		在宅看護援助論			統合分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	45時間
担当教員		藤原 美穂					
授業目的		在宅看護の基本を踏まえて在宅における対象者の日常生活行動の特徴とアセスメントの視点および看護援助を修得する。					
到達目標		1) 療養者やその家族の生活を理解し、在宅看護の特殊性を踏まえた援助方法を理解できる。 2) 在宅看護の役割と機能を理解できる。 3) 他職種との連携や社会資源の活用方法について理解できる。					
授業の概要		在宅看護の対象者やその家族を支える社会制度や社会資源、対象者やその家族の地域環境、地域の特性の理解する。そして、対象者やその家族の健康と生活問題に対応する看護職、他職種の役割を理解する。また、在宅看護に必要な具体的援助活動を学び、看護師や他職種の役割と、在宅看護の機能、連携や社会資源の活用方法を理解する。					
成績評価		演習の状況やレポートの提出、定期試験により総合評価する。					
教科書等		秋山正子他:在宅看護論(医学書院) 臺有桂:ナーシンググラフィカ 在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術(メディカ出版)					
自己学習		在宅看護論・国民衛生の動向を読み関連して学習をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 在宅における医療管理を要する人の看護					
		第2回 在宅看護援助の基本・活動を支えるコミュニケーション					
		第3回 在宅における安全性の確保(療養上のリスクマネジメント)					
		第4回 在宅で求められる看護技術—呼吸・フィジカルアセスメント					
		第5回 在宅で求められる看護技術 —排泄					
		第6回 在宅で求められる看護技術 —食生活・嚥下					
		第7回 在宅で求められる看護技術 —移動・移乗					
		第8回 在宅で求められる看護技術 —清潔					
		第9回 認知機能のアセスメント法と援助技術					
		第10回 褥瘡の予防とケア					
		第11回 尿道留置カテーテルの管理					
		第12回 ストーマ(人工肛門・人工膀胱)					
		第13回 経管栄養法					
		第14回 在宅中心静脈栄養法					
		第15回 在宅人工呼吸療法					

学科		看護学科	開講年度		令和3年度		
科目名		在宅看護援助論			統合分野		
学年	2年	開講期間	前期	単位数	2単位	時間数	45時間
担当教員		藤原 美穂					
授業計画(授業内容)		第16回 非侵襲的陽圧換気療法					
		第17回 在宅酸素療法					
		第18回 在宅看護の展開方法					
		第19回 在宅看護過程展開					
		事例検討:情報整理シートを活用した情報収集					
		第20回 在宅看護過程展開					
		事例検討:情報整理シートを活用した情報整理					
		第21回 在宅看護過程展開					
		事例検討:情報選択と解釈・判断(アセスメント)					
		第22回 在宅看護過程展開					
		事例検討:対象者のシステム関連図					
第23回 在宅看護過程展開							
事例検討:看護課題の提示							